

(案)

愛知県公立大学法人
2024年度業務実績に関する評価結果

令和7年9月

愛知県公立大学法人評価委員会

目 次

はじめに	1
第1 全体評価	
1 評価結果と判断理由	2
(1) 評価結果	
(2) 判断理由	
ア 項目別評価	
イ 評価に当たって考慮した項目	
2 評価に当たっての意見、指摘等	5
第2 項目別評価	
1 業務運営の改善及び効率化に関する項目	
(1) 評価結果	6
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	6
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	7
2 財務内容の改善に関する項目	
(1) 評価結果	8
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	8
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	8
3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目	
(1) 評価結果	9
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	9
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	9

4	その他業務運営に関する重要項目	
(1)	評価結果	10
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	10
	ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
	イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
	ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3)	評価に当たっての意見、指摘等	10
5	教育研究等の質の向上に関する項目	
(1)	進捗状況の確認結果	11
(2)	各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況	12
	【県立大学】	12
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	
	【芸術大学】	14
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	

<参考>

参考資料

- 愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領…………… 16
- 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿…………… 19

はじめに

愛知県公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第 78 条の 2 により評価の対象とされている事業年度である 2024 年度の業務実績について、「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、法人が中期計画に定めた項目について、下記のとおり評価を行った。

記

評価は、2024 年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行った。

(参考) 中期計画(2019 年度～2024 年度)に定める項目

大 項 目	小項目
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	45(19)
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	9(3)
第3 財務内容の改善に関する目標	2(0)
第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	2(0)
第5 その他業務運営に関する重要目標	4(1)
計	62(23)

※中期目標達成のため法人(大学)の資源を集中し、重点的に取り組む戦略性の高い項目を【重点的計画】としている。()内は重点的計画数。

第 1 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

存在感と信頼感のある「地域の重要な教育研究機関として活躍する大学」を目指し、自らの強みや特色を生かした機能強化を図り、地域を支える人材の育成、地域との連携や地域への貢献を推進するために、自治体、他大学、産業界などとの連携の一層の強化に取り組むという中期目標の方向性に沿って

中期計画を順調に実施していると認められる。

(2) 判断理由

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況・業務の運営状況など、中期計画の進捗状況全体について評価した。

ア 項目別評価

項目別評価結果一覧

大 項 目 \ 評 価	S	A	B	C	D	項目別評価の内容
業務運営の改善及び効率化に関する目標		○				6 頁
財務内容の改善に関する目標		○				8 頁
教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		○				9 頁
その他業務運営に関する重要目標		○				10 頁
教育研究等の質の向上に関する目標	(事業の外形的・客観的な進捗状況) 順調に実施していることを確認					11 頁

※ 評価基準

- S 特に優れた実績を上げている。
- A 順調に実施している。
- B おおむね順調に実施している。
- C 十分に実施できていない。
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。

イ 評価に当たって考慮した項目

中期目標の方向性に沿って実施された 2024 年度の取組について、法人による自己点検・自己評価を検証した結果、特筆すべき（高く評価した）項目、遅れている項目を次のとおり確認し、全体評価に当たって考慮した。なお、遅れている項目はなかった。

＜特筆すべき（高く評価した）項目＞

【愛知県立大学】

○新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育の実施〔1〕【重点的計画】

- ・全学部連携型授業として、1年次必修とした「多文化社会への招待」及び「データサイエンスへの招待」、選択科目である「県大エッセンシャル」及び「県大教養ゼミナール」を開講
- ・複数学部連携型授業として、「グローバル社会の諸問題」、「エリアスタディーズ総論」、「いのちと防災の科学」及び「ものづくりの現状と課題」を開講
- ・2024年度の「県大世界あいち学」においては、全学部連携型授業については指標を上回る4科目、複数学部連携型授業については指標とする4科目開講

○専門教育における効果的な教育カリキュラムへの見直し〔4〕

- ・外国語学部において、新教育プログラム「多言語社会課程」の必修科目であるゼミやPBL型授業、国内外のフィールド実習等を整備し、シミュレーションや学内説明会を実施して2025年度開講準備を進め、20名の履修が決定
- ・日本文化学部において、「世界へ発信する日文カリキュラム」として「歴史文化」、「社会文化」に「比較文化」を加え、より現代社会のニーズにあった学びを深めることができる新たな科目を開講

○大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し〔5〕

- ・国際文化研究科「コミュニティ通訳学コース」において、「多言語多文化社会で必要とされるコミュニケーションデザイン能力を有する専門職人材の共同育成」プログラムが文部科学省研究拠点形成費等補助金事業に採択され、オーストラリア・スペイン・台湾・ベトナムの大学院と連携した教育研究を開始
- ・情報科学研究科において、博士前期課程の学生10名が「共同研究プロジェクト」として単位認定を伴う民間企業及び外部機関でのインターンシップを実施

○特色ある教員養成を行うための教育の推進〔7〕

- ・文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」として「多文化共生社会の課題解決に向けた協働的力の形成～ポートフォリオを軸とした「あいち地域共創教員プログラム」～」が採択され、愛知県と名古屋市、及び近隣の長久手市、瀬戸市、尾張旭市、日進市の各教育委員会と連携し、地域に根ざした多文化共生について自ら学び考え地域と共創する教師の養成プログラムを新たに開始

○学部・研究科横断型の学際的研究や、産業界・地域社会等との連携による高度で挑戦的な研究を積極的に推進〔18〕【重点的計画】

- ・学長特別研究費「学部間連携・産学公連携研究」2件を採択し、多様な学部を有する強みを生かして多角的視座から愛知県の地域課題解決を目指す研究を実施

○県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進 [22]【重点的計画】

- ・愛知県防災局県民安全課と共催して「性暴力被害防止セミナー」「フォローアップ交流会」を開催したほか、高等学校教育課と連携して「全国高等学校情報教育研究会全国大会」及び公開講座「空飛ぶ車ー『空の移動革命』」を開催するなど、愛知県関連部署と指標を上回る 13 回の意見交換会を実施するとともに、指標を上回る 4 件の共催事業・貢献活動を実施

【愛 知 県 立 芸 術 大 学】

○実技力と芸術性をもつ人材の育成に向けた魅力ある学部教育の推進 [30]【重点的計画】

- ・領域を超えた授業科目として陶磁専攻と作曲専攻による合同授業を継続し、代官山蔦屋書店にて成果発表を行ったほか、領域を超えた教育のさらなる拡充のため、デザイン専攻と愛知県立大学の近代文学の研究室とで卒業研究に係る学生交流を実施
- ・アーティスト・イン・レジデンス事業及び外国人客員教員による特別講座等については、指標を上回る 7 件実施

○学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進 [36]【重点的計画】

- ・学生へのキャリア支援において、キャリアサポートガイダンスを、指標を上回る 53 回実施
- ・学生の志望度が高い業界の内定者による実体験を踏まえた内容の座談会を実施するとともに、志望度が低い業界についても理解の機会を増やすために説明会等を実施

○教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元 [39]【重点的計画】

- ・愛知芸大芸術講座として、宗次ホール協賛により、弦楽器コースの教員を中心としたレクチャーコンサート「室内楽の響演Ⅱ」を開催するなど、地域のホールや団体と協力した演奏会等に教員と学生がともに参加
- ・油画専攻・横山准教授が金沢 21 世紀美術館にて作品が展示されるとともに、京都国立近代美術館にてギャラリートークを行ったほか、メディア映像専攻・有持教授が現代アニメーション研究の国際会議にて、エストニア・アニメーション史の研究発表を実施するなど、国内外での活動を推進
- ・受賞実績として、作曲コース・小林教授が令和 6 年度愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞

○研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組[40]【重点的計画】

- ・総合環境展「エコプロ 2024」に企業と共同でブースを出展して研究成果を公開したほか、長久手市から受託した市の歴史を伝える文化財「長久手合戦図屏風」の復元模写が完成
- ・科学研究費補助金及びその他の助成金への申請を、指標を上回る合計 29 件実施

○愛知県や他機関等との連携推進及び県民が芸術に親しむ機会の創出[41]

- ・国際芸術祭あいち、愛知万博 20 周年記念事業、あいち県民の日などの連携事業として、展覧会や演奏会等を実施
- ・名古屋中ロータリークラブとの共催により、子供たちが本格的な芸術を体験するイベント「こども愛知芸大」を開催し、作品制作やワークショップ、ミニコンサートやワンポイントレッスンなどのプログラムに約 220 名が参加

- ・名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」を推進し、新たな作品の設置や展覧会、共創研究を行うとともに、アンケートによる効果測定を実施

【法人運営】

○様々な連携による大学の魅力づくりの推進【48】【重点的計画】

- ・2大学による連携事業を検討・推進するための会議を、指標を上回る7回開催
- ・2大学連携ワーキンググループを立ち上げ、2大学が連携して行う新たな教養教育科目の開講を決定し、立ち上げスケジュールや試験的に取組等の検討を実施
- ・両大学の学生を対象に、アントレプレナーシップ教育の専門家による特別集中授業を実施したほか、科学技術振興機構の補助金を活用して高校生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムも実施
- ・愛知県経済産業局革新事業創造部及びフランスの高等教育機関と連携し、「第3回スタートアップ国際シンポジウム」をSTATION Aiで開催

<遅れている項目>

なし

2 評価に当たっての意見、指摘等

2024年度は中期目標の最終的な達成のため、様々な取組を推進し、中期計画を順調に実施していることは評価できる。

愛知県立大学では、新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による全学部・複数学部連携型授業の一層の発展や、文部科学省の「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」に採択された新たな教員養成プログラムを自治体と連携して開始するなどの地域貢献・連携を積極的に行ったこと、愛知県立芸術大学では、美術学部と音楽学部の合同授業などによる領域を越えた教育の推進や、教員による精力的な芸術活動及び子供向けイベント「こども愛知芸大」の開催などで県民が芸術に親しむ機会の創出や他機関との連携を積極的に行ったことを特に評価する。

また、業務運営の改善及び効率化に関しては、2大学が連携した教養科目開講の決定や、科学技術振興機構の補助金を活用した高校生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムの実施など、様々な連携による大学の魅力づくりを推進したことを特に評価する。

第四期中期目標期間においては、これまでの取組をさらに発展させ、法人及び2大学の社会的存在感及び信頼感を一層向上させることを期待する。

第2 項目別評価

1 業務運営の改善及び効率化に関する項目

(1) 評価結果

		I	II	III	IV	計
S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)					
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)					
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)					
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)					
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)					
重点的計画考慮後の合計		0	0	10	2	12
評価区分ごとの項目数				8(2)	1(1)	9(3)
内訳	戦略的な法人・大学運営			2(1)	1(1)	3(2)
	教育研究組織の見直し			1		1
	人材の確保・育成			4(1)		4(1)
	事務の効率化・合理化等			1		1

※重点的計画とされている項目は、項目数を2倍にカウントする。()内は重点的計画数。

評価区分

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

[48] 様々な連携による大学の魅力づくりの推進【重点的計画】

2大学連携推進会議及びワーキンググループを合計7回開催した。そのうち、2大学が連携した教養科目の開講に向けて新たに立ち上げたワーキンググループでは、新規科目「2大学エッセンシャル(仮)」の立ち上げを決定したほか、立ち上げスケジュールや試験的に実施していく取組等の検討を行った。

また、両大学の学生を対象としたアントレプレナーシップ教育に関する特別集中授業を実施したほか、東海地区の起業家育成プロジェクト「Tongali」を通じて採択された科学技術振興機構(JST)の補助金を活用し、高校生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムを実施した。(県大：4回、芸大：4回)

さらに、県立大学と新たに包括協定を締結したフランスの高等教育機関と連携の上、愛知県経済産業局革新事業創造部との共催により「第3回スタートアップ国際シンポジウム」をSTATION Aiで開催した。

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な し

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

な し

2 財務内容の改善に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)		I	II	III	IV	計
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)	評価区分ごとの項目数	0	0	2	0	2
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)						
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)						
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)						

評価区分

I 年度計画を実施していない。

II 年度計画を十分には実施していない。

III 年度計画を十分に実施している。

IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目〔評価Ⅳ〕

な し

イ 遅れている項目〔評価Ⅱ〕

な し

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な し

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

な し

3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)		I	II	III	IV	計
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)	評価区分ごとの項目数	0	0	2	0	2
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)	評価区分ごとの項目数			2		2
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)	内訳			1		1
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)	評価の活用			1		1
		情報公開等の推進			1		1

評価区分

I 年度計画を実施していない。

II 年度計画を十分には実施していない。

III 年度計画を十分に実施している。

IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

な し

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

な し

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

な し

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

な し

4 その他業務運営に関する重要項目

(1) 評価結果

		I	II	III	IV	計
S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)					
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)	0	0	5	0	5
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)					
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)					
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)					

重点的計画考慮後の合計		I	II	III	IV	計
		0	0	5	0	5
評価区分ごとの項目数				4(1)		4(1)
内 訳	施設・設備の整備及び安全管理			3(1)		3(1)
	法令遵守			1		1

※重点的計画とされている項目は、項目数を2倍にカウントする。()内は重点的計画数。

評価区分

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

5 教育研究等の質の向上に関する項目

(1) 進捗状況の確認結果

【事業の外形的・客観的な進捗状況】

各大学について、いずれも

順調に実施していることを確認

※「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

<参考>

[各大学別小項目進捗状況]

区 分		教育	研究	地域連携 ・ 貢献	その他	合計	重点的計 画考慮後 の合計	(%)
年度計画を実施していない (I)	総合	0	0	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない (II)	総合	0	0	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している (III)	総合	20 (5)	3 (1)	5 (3)	6 (3)	34 (12)	46	71.9
	県大	13 (2)	3 (1)	3 (1)	4 (2)	23 (6)	29	76.3
	芸大	7 (3)	0	2 (2)	2 (1)	11 (6)	17	65.4
年度計画を上回って実施している (IV)	総合	6 (3)	3 (3)	2 (1)	0	11 (7)	18	28.1
	県大	4 (1)	1 (1)	1 (1)	0	6 (3)	9	23.7
	芸大	2 (2)	2 (2)	1 (0)	0	5 (4)	9	34.6
計	総合	26 (8)	6 (4)	7 (4)	6 (3)	45 (19)	64	100.0
	県大	17 (3)	4 (2)	4 (2)	4 (2)	29 (9)	38	100.0
	芸大	9 (5)	2 (2)	3 (2)	2 (1)	16 (10)	26	100.0

※重点的計画とされている項目は、項目数を2倍にカウントする。() 内は重点的計画数。

(2) 各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況

【 県立大学 】

ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢献	その他	合計	重点的計画 考慮後の 合計	(%)
年度計画を実施していない (Ⅰ)	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない (Ⅱ)	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している (Ⅲ)	13 (2)	3 (1)	3 (1)	4 (2)	23 (6)	29	76.3
年度計画を上回って実施している (Ⅳ)	4 (1)	1 (1)	1 (1)	0	6 (3)	9	23.7
計	17 (3)	4 (2)	4 (2)	4 (2)	29 (9)	38	100.0

※重点的計画とされている項目は、項目数を2倍にカウントする。() 内は重点的計画数。

イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

〔1〕 教育：新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育を実施【重点的計画】

全学部連携型授業として、1年次必修とした「多文化社会への招待」及び「データサイエンスへの招待」、選択科目である「県大エッセンシャル」及び「県大教養ゼミナール」を開講した。複数学部連携型授業としては、「グローバル社会の諸問題」、「エリアスタディーズ総論」、「いのちと防災の科学」及び「ものづくりの現状と課題」を開講した。

また、学部間連携のほか、自治体や企業・団体とも連携し、幅広い分野の外部講師を活用して多彩な授業を展開した。

なお、2024年度の「県大世界あいち学」においては、全学部連携型授業については指標を上回る4科目、複数学部連携型授業については指標とする4科目を開講した。

〔4〕 教育：専門教育における効果的な教育カリキュラムへの見直し

外国語学部において、新教育プログラム「多言語社会課程」の必修科目であるゼミやPBL型授業、国内外のフィールド実習等を整備し、シミュレーションや学内説明会を実施して2025年度開講準備を進め、20名の履修が決定した。

また、日本文化学部において、「世界へ発信する日文カリキュラム」として「歴史文化」、「社会文化に「比較文化」を加え、より現代社会のニーズにあった学びを深めることができる新たな科目を開講した。

〔5〕 教育：大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し

国際文化研究科「コミュニティ通訳学コース」において、「多言語多文化社会で必要とされるコミュニケーションデザイン能力を有する専門職人材の共同育成」プログラムが文部科学省研究拠点形成費等補助金事業に採択され、オーストラリア・スペイン・台湾・ベトナムの大学院と連携した教育研究を開始した。

また、情報科学研究科において、博士前期課程の学生 10 名が「共同研究プロジェクト」として単位認定を伴う民間企業及び外部機関でのインターンシップを実施した。

〔7〕 教育：特色ある教員養成を行うための教育の推進

文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」として「多文化共生社会の課題解決に向けた協働的力量の形成～ポートフォリオを軸とした「あいち地域共創教員プログラム」～」が採択され、愛知県と名古屋市、及び近隣の長久手市、瀬戸市、尾張旭市、日進市の各教育委員会と連携し、地域に根ざした多文化共生について自ら学び考え地域と共創する教師の養成プログラムを新たに開始した。

〔18〕 研究：学部・研究科横断型の学際的研究や、産業界・地域社会等との連携による高度で挑戦的な研究を積極的に推進【重点的計画】

学長特別研究費「学部間連携・産学公連携研究」2 件を採択し、多様な学部を有する強みを生かして多角的視座から愛知県の地域課題解決を目指す研究を実施した。

また、連携した研究を支援するため、教員研究発表会「愛県大アカデミックデイ」を開催して研究成果を発信した。

〔22〕 地域連携・貢献： 県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進【重点的計画】

愛知県防災局県民安全課と共催して「性暴力被害防止セミナー」「フォローアップ交流会」を開催したほか、高等学校教育課と連携して「全国高等学校情報教育研究会全国大会」及び公開講座「空飛ぶ車ー『空の移動革命』」を開催するなど、愛知県関連部署と指標を上回る 13 回の意見交換会を実施するとともに、指標を上回る 4 件の共催事業・貢献活動を実施した。

（イ） 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

な し

（ウ） 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

な し

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

な し

【芸術大学】

ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携 ・貢献	その他	合計	重点的計画考慮後の合計	(%)
年度計画を実施していない（Ⅰ）	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない（Ⅱ）	0	0	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している（Ⅲ）	7(3)	0	2(2)	2(1)	11(6)	17	65.4
年度計画を上回って実施している（Ⅳ）	2(2)	2(2)	1(0)	0	5(4)	9	34.6
計	9(5)	2(2)	3(2)	2(1)	16(10)	26	100.0

※重点的計画とされている項目は、項目数を2倍にカウントする。（ ）内は重点的計画数。

イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

（ア）特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

[30] 教育：実技力と芸術性をもつ人材の育成に向けた魅力ある学部教育の推進【重点的計画】

領域を超えた授業科目として陶磁専攻と作曲専攻による合同授業を継続し、代官山蔦屋書店にて成果発表を行ったほか、領域を超えた教育のさらなる拡充のため、デザイン専攻と県立大学の近代文学の研究室とで卒業研究に係る学生交流を実施した。

また、アーティスト・イン・レジデンス事業及び外国人客員教員による特別講座等については、指標を上回る7件実施した。

[36] 教育：学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進【重点的計画】

学生へのキャリア支援において、キャリアサポートガイダンスを、指標を上回る53回実施した。

また、学生の志望度が高い業界の内定者による実体験を踏まえた内容の座談会を実施するとともに、志望度が低い業界についても理解の機会を増やすために説明会等を実施した。

[39] 研究：教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元【重点的計画】

愛知芸大芸術講座として、宗次ホールの協賛により、弦楽器コースの教員を中心としたレクチャーコンサート「室内楽の響演Ⅱ」を開催するなど、地域のホールや団体と協力した演奏会等に教員と学生がともに参加した。

また、油画専攻・横山准教授が金沢21世紀美術館にて作品が展示されるとともに、京都国立近代美術館にてギャラリートークを行ったほか、メディア映像専攻・有持教授が現代アニメーション研究の国際会議にて、エストニア・アニメーション史の研究発表を実施するなど、国内外での活動を推進した。

なお、作曲コース・小林教授の令和6年度愛知県芸術文化選奨文化賞の受賞実績があった。

[40] 研究：研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組【重点的計画】

総合環境展「エコプロ 2024」に企業と共同でブースを出展して研究成果を公開したほか、長久手市から受託した市の歴史を伝える文化財「長久手合戦図屏風」の復元模写が完成させた。

また、科学研究費補助金及びその他の助成金への申請を、指標を上回る合計 29 件実施した。

[41] 地域連携・貢献：愛知県や他の自治体、他大学、産業界、文化施設等との多様な連携を推進

国際芸術祭あいち、愛知万博 20 周年記念事業、あいち県民の日などの連携事業として、展覧会や演奏会等を実施した。

また、名古屋中ロータリークラブとの共催により、子供たちが本格的な芸術を体験するイベント「こども愛知芸大」を開催し、作品制作やワークショップ、ミニコンサートやワンポイントレッスンなどのプログラムに約 220 名が参加した。

さらに、名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」を推進し、新たな作品の設置や展覧会、共創研究を行うとともに、アンケートによる効果測定を行った。

(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)

な し

(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

な し

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

な し

参考資料

○ 愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

2 評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

- (1) 大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。
- (2) 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。
- (3) 評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。
- (4) 評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

3 評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施に当たっては、法人が、中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況について、法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し、評価する。

① 項目別評価

評価委員会は、年度計画に定める各項目の達成状況を確認することにより、当該年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとにⅠ～Ⅳランクの４段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に、法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

評価委員会は、中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の4段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

ウ 評価委員会による評価

評価委員会は、小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、S、A、B、C、Dランクの5段階で評価する。

なお、法人が中期計画で設定した「重点的計画」については、小項目ごとの評価において項目数を2倍にカウントする。別紙

ランク	評価基準
S	特に優れた実績を上げている。(評価委員会が特に認める場合)
A	順調に実施している。(全ての小項目がⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。 (9割以上がⅢ～Ⅳ、又は、計画の進捗状況や特記事項の記載を総合的に勘案して、評価委員会が「B」相当と認める場合)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割に満たず、かつ評価委員会が「C」相当と認める場合)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(評価委員会が特に認める場合)

② 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年6月末日までに評価委員会に提出する。

5 評価結果

- (1) 評価結果は、法人に通知する。
- (2) 評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。
- (3) 評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。
- (4) 知事は、前項の報告を受けたときは、その旨を議会に報告する。

6 評価結果の反映

- (1) 評価結果がB又はCランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の必要の措置を講ずる。
- (2) 評価結果がDランクの項目については、原則として、評価委員会は、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。

「重点的計画」を踏まえた評価について

愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領 3、①、ウに定める重点的計画に関する評価の具体例

大項目①の中に小項目数が 9 項目あり、その 3 項目が「重点的計画」であった場合

大項目①		評価 結果	重点的計画を 反映した項目数
1	小項目ア【重点的計画】	Ⅲ	2
2	小項目イ	Ⅲ	1
3	小項目ウ【重点的計画】	Ⅳ	2
4	小項目エ	Ⅲ	1
5	小項目オ【重点的計画】	Ⅲ	2
6	小項目カ	Ⅲ	1
7	小項目キ	Ⅲ	1
8	小項目ク	Ⅲ	1
9	小項目ケ	Ⅱ	1
		合計	12

以下のとおり評価結果が異なることとなる。

重点的計画を踏まえない場合		⇒	重点的計画を踏まえた場合	
小項目数	9		小項目数	12
Ⅲ又はⅣの項目数	8		Ⅲ又はⅣの項目数	11
Ⅲ又はⅣの割合	$8/9 = 88.9\%$		Ⅲ又はⅣの割合	$11/12 = 91.7\%$
大項目の評価結果	ランク C 「年度計画を十分に実施できていない。」		大項目の評価結果	ランク B 「年度計画をおおむね順調に実施している。」

○ 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿

氏 名	職 名
石川 知子	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
河辺 一郎 (委員長代理)	愛知大学現代中国学部教授
前田 健一 (委員長)	名古屋工業大学副学長 名古屋工業大学大学院工学研究科教授
松本 千佳	公認会計士
山本 光子	パーソルテンプスタッフ株式会社相談役 名城大学監事

(五十音順、敬称略)